

会報

NPO法人・日本抜刀道連盟

事務局
〒221-0001
川崎市幸区中幸町一十七
電話 〇四四一五五五八六六〇
FAX 〇四四一三三三七五四四

二十周年記念全国大会終了 団体戦は英信館支部が三連覇達成

NPO法人・日本抜刀道連盟は、今年で創立二十周年を迎え、今年の全国大会は記念すべき大会となった。
日本抜刀道連盟は平成三年六月に創立、平成十六年七月にNPO法人を取得し現在にいたっている。現在では国内外併せて四十一支部、会員は三百九十一名と発展してきた。

今年の二十周年記念大会は、晴天に恵まれ秋らしい清々しい大会であった。

大会は十月二日(日曜)午前九時から、抜刀道連盟・本部道場の(財)鹿島神武殿で開催された。
今年には二十五支部から百四十五人が参加した。

国旗拝礼、君が代斉唱の後、大会名誉会長・岡田広参議院議員は

「剣豪・宮本武蔵は、一寸は広いのか狭いのかと言ったが、川に橋をかけようとするれば一寸では短い、しかしその一寸も長く使える場合もある。抜刀道も日本力



上 露払いをする大江正男会長

下 巻藁射礼を演じる中世古勝司副会長



故で、優秀な成績をおさめられることを願っています」と挨拶した。

御来賓

今年には二十周年とあって、連盟名誉会長の岡田広・参議院議員の他三名の方々のご来場をいただいた。次のとおり。
〇国際抜刀道連盟・中村憲三理事長
〇全日本抜刀道連盟・酒井田善衛門会長
〇日本総合武道尚武館総本部・下田柔心館長

特別演武

今年には二十周年にあたり、大江正男会長が露払いをおこなった。
また特別演武として、弓道の巻藁射礼が披露された。(裏面に関連投稿あり)

- 射 手 弓道錬士六段 中世古勝司
- 介添え 弓道錬士六段 佐藤敬子
- 日本抜刀道連盟副会長 矢野 翼
- 日本抜刀道連盟組太刀 金子 翼
- 打太刀 教士八段 松井 弘
- 仕太刀 教士八段 大塚光男

試合

試合は例年とおり三つの会場にわかれておこなわれた。出場選手は、

- 形の部 初段以下 四十三名
- 二・三段 四十五名
- 四・五段 三十一名
- 実技の部 初段以下 四十一名
- 二・三段 四十五名
- 四・五段 三十一名

団体戦は二十二支部、三十五チーム。参加選手は百三名となった。
しかし始めから二名の団体もあり、当日不参加となった団体もあったので団体戦で不戦勝のチームがでた。
また形の部では、赤白同時に演武する方法も試みられたが、大会の進行時間の管理上では効率がよく五時前に表彰式も終わったので、遠方に帰る選手のためにはよかった。

中倉旗は英信館が三連覇達成

個人、団体戦とも各会場準決勝までが終了したあと、中央の第二会場で個人実技と団体の決勝戦がおこなわれた。
いつの大会でもハイライトは中倉旗をきそう団体戦だが、今年も英信館支部Bチームと坂東支部Aチームの戦いとなった。さすがに団体戦決勝は全員が見守る中で熱のもったものだった。
結果は英信館Bチームの優勝となった。

チームのメンバーはちがうが、これで英信館は団体優勝三連覇をなした。今年も英信館Bチームのメンバーは、先鋒、中堅ともに女性剣士で大將だけが男性剣士という組合わせだった。
また川崎支部からはAB二チームが出場したが、二チームとも三位に入賞するという好成績だった。
(写真は裏面に掲載)

日本武道学会第四十四回大会参加報告 次席副会長 金子 翼

平成二十三年八月三十一日・九月二日の両日、千葉県勝浦市にある国際武道大学で日本武道学会第四十四回大会が開催された。

この学会の会員は、その大多数が武道学科・武道コース等を持つ大学に所属する教授から大学院生を含む武道研究者であり、他の領域の学会と同様に会員が自らの研究成果を世に問い、また質疑応答などにより研究をさらに進展・成熟させる目的で開催される。

研究方法別にみると「自然科学系」「人文・社会科学系」「武道指導法系」となっており、武道種目別では「柔道」「剣道」「空手道」「相撲」「弓道」「なぎなた」に分れ、参加者は、それぞれの会場に足を運び、発表を聴いたり質疑応答に参加する。

今回の発表演題数は全部で九十八題であり、その内訳は「柔道・柔術」が三十八題、「剣道・剣術」が三十題、「空手・拳法」が六題、その他が二十四題であった。

加えて「武道の比較文化的考察」(魚住 孝志・国際武道大学)という特別講演、さらに「武道の固有性を新たに問う・武道の国際的普及をめぐる」(坂上 康博・一橋大学、アレキサンダー・ベネット・関西大学)というパネルディスカッションがプログラムとして組まれた。

残念ながらこの学会でのカテゴリーとして居合道や抜刀道は無い。これは、それらの武道の研究者が極めて稀であり、一つのカテゴリーを立てるに足る人口の少なさに起因している。

私は学会参加前に送付された抄録の全てに目を通し、特に剣道・剣術系の興味ある演題が発表される会場を遠征し、分単位で予定表を作り、四つの発表会場を忙しく歩き回った。

それらの中で「加速度センサを用いた竹刀剣先速度評価システム」「近世剣術における足遣いに関する一考察」「韓国剣道の現状・審判の判定に対する映像判読誤りの導入・注、勝敗のビデオ判定」「千七百年前後の小野家の刀法について：小野家・津軽家伝書に基づく研究」等が今回特に興味深い演題であった。いづれにせよ、今後とも、この学会での研究発表・質疑応答・ロビー活動などを通して、「日本抜刀道連盟の」抜刀道の啓蒙に努めたいと考えている。



↑三連覇を成し遂げた英信館Bチームと大会役員
←ウプル・スナンダ剣士と
山上天世少年剣士（いずれも春風館）



サムライと少年

今年はこの話題があった。一つ目は、二・三段の部でスリランカ人剣士「ウプル・スナンダ」さん（四十三歳）が、形、実技とも優勝し金メダルを二個獲得したことである。ウプル・スナンダさんは十年前に空手選手権のために来日したが日本刀に興味を持ち、春風館に入門した。スナンダさんは経営する会社も「サムライ・ジャパン」と名付けるほどの日本びいきである。

二つ目の話題は、小学校六年生で十二歳の山上天世（ヤマカミ、テンセイ）君が初段以下形の部で優勝を果たした。スナンダさんと同じ春風館で、小学校一年生の時に入門した。

抜刀道連盟全国大会では、過去にも十二歳と十四歳の兄弟剣士が決勝で戦ったことがあったが、少年少女の活躍は連盟の明るいニュースだ。

心に残る言葉 心を磨く (第四回)

特別寄稿 日本抜刀道連盟副会長 中世古勝司

弓道教諭

一、善射不中の（善射まにあらず）
（意）善い射をする人、つまり弓の名人は的にあてようと思わない。つまり無心の境地を云う。

二、離れは言知らず又我も知らず
（意）会（かい）に入ってから矢が離れるまで天地左右に伸び合って離れを持つのである。これは「無心」の境地であり、弓は立禅（リツゼン）と云われる所以である。

三、射神見性（しゃりけんしやう）
（意）その人の射をみれば本来備わっている人柄、人生観までも、うかがい知ることができる。



徳川最後の将軍・徳川慶喜（明治）

礼記―射義―

射は進退周還（しんたいしゅうわん）必ず礼に中（あた）り、内志（うちし）（こころざし）正しく、外体直（そとたいちよく）くして、然る後に弓矢を持（と）ること審固（しんこ）なり。弓矢を持（と）ること審固（しんこ）にして、然る後に以（も）つて中（あた）ると言（い）ふべし。これ以（も）つて徳行（とくぎやう）を觀（み）るべし。

吉貝順正

射法訓

射法は、弓を射して骨を射ること最も肝要なり。

心を総体の中央に置き、而して弓手（ゆんで）三分の二弦を推（お）し、妻手（めて）三分の一弓を引き、而して心を納（な）め是れ和合（わがく）なり。

然る後胸の中筋（なかつじ）に従い、宜しく左右に分かるる如くこれを離（はな）つべし。書に曰く鉄石相剋（てつせきさうこく）（あいつ）して火の出する事急なり。

即ち金体白色、西半月の位なり。

第二十回全国大会

平成二十三年十月二日

| 制定刀法形・個人 | 優 勝 | 準優勝 | 三 位 | |
|-----------|--------------|----------|-------------------|-------------------|
| 初段以下 | 山上天世・春風館 | 望月 透・静岡 | 島田義和・坂東 辻井香理・忠勇会 | |
| 二・三段 | ウプル・スナンダ・春風館 | 細川 隆・高知 | 戸田章文・武山会 江田 豊・板東 | |
| 四・五段 | 藤田久夫・剣誠会 | 富田憲介・尚武館 | 岡本光正・英信会 中島 始・興心会 | |
| 制定刀法実技・個人 | 初段以下 | 進藤恭平・高知 | 島田義和・坂東 | 木村さおり・坂東 辻井香理・忠勇会 |
| 二・三段 | ウプル・スナンダ・春風館 | 小林克己・尚武館 | 成田英右・英信会 進藤智之・尚武館 | |
| 四・五段 | 境 泰雅・高知 | 富田憲介・尚武館 | 岡本光正・英信会 山上武志・春風館 | |
| 制定刀法・団体先 | 支部名 | 英信館Bチーム | 板東支部Aチーム | 川崎支部A 川崎支部B |
| 先 鋒 | 大野育子 | 木村さおり | 高橋道夫 託摩哲朗 | |
| 中 堅 | 佐藤亜里香 | 島田義和 | 板橋宜孝 小林勇起 | |
| 大 将 | 増田幸弘 | 金久保寿雄 | 山本栄一 佐藤敬子 | |

刀剣の身巾規制について

今大会での刀剣検査では、物打ちで三十ミリを超えるものが三振りあったが「使用不可」と通告して本人にもどした。次期大会からは三十ミリを超える刀剣は大会終了まで本部が預かることとする。

二十一回大会と高段者審査の日程決まる

来年の第二十一回大会は、十月十四日（日曜）と決定した。

また、高段者審査会は、大会前日の十月十三日（土曜）と決定した。

連盟20周年記念誌

ページの訂正についてお願い
記念誌＜足跡と記録＞のページに誤りがありましたので訂正をお願いいたします。P33をP34に、P34をP33に、P35をP36に、P36をP35に、それぞれ訂正をお願いいたします。ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

記念誌＜足跡と記録＞はまだ在庫がございますのでこの際是非お求め下さい。

1冊¥2,850 事務局にお申込下さい